『ヴァチカン・パリンプセスト・キリル・アプラコス』のsynaxarion

メタデータ	言語: jpn 出版者: 明治大学教養論集刊行会 公開日: 2013-05-23 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 岩井, 憲幸 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10291/14866

明治大学教養論集　通巻478号
（2012・1）pp. 1-22

『ヴァチカン・パリンプセスト・キリル・アプラコス』の synaxarion

岩　井　憲　幸

1. はじめに

小論は，前回発表した『ヴァチカン・パリンプセスト・キリル・アプラコス』（以下 VP と略称）の menologion を検討した小文[1] と対をなすものである。小論の底本は前回同様次の書である。

Трендафил Кръстанов, Анна-Мария Тотоманова, Иван Добрев, Ватиканско евангелие: Старобългарски кирилски апракос от X в. в палимпсестен кодекс, Vat. Gr. 2502 (Evangile de Vatican: Evangéliaire paléobulgare cyrillique du Xe siècle dans le codex palimpseste, Vat. Gr. 2502), София, СИБАЛ, 1996.

VP の文献学的概要は前稿に譲る。

本稿の目的は，VP の synaxarion の実態を具体的に明示すること，およびその特徴点を明らかにすることである。前者の場合，残存箇所――裏返せば佚亡箇所――を提示し，それがどのペリコペーに属するかを確認することが主要な作業となる。よって，実態を表にまとめることを試み，表にあらわしきれない細部の問題は個々の備考に記すこととしたい。これらの作業によって，前述の後者はおのずと導き出されると考える[2]。前稿・本稿はともに VP 理解の基礎的研究とみなしうる。なお本稿では，いわゆる〈主日の早課の 11 の福音〉迄を synaxarion 部分として取り扱う[3]。

2. VP の synaxarion

VP はいわゆる aprakos であり，主に synaxarion と menologion の順の2部で構成される。Synaxarion は年ごとに移動する復活祭（パスハ）を起点とする教会暦に従い，その聖務日課を指示し，実際に読誦すべき聖書のテクストを掲げる部である。底本にあってはp. 27 からp. 139 迄を占める。底本に独自に付された葉の番号に従えば1から116の首迄がそれである（以下底本の葉番号はNo 1のように表示する）[4]。

3. VP の synaxarion の実態

VP の synaxarion の形式的実態を表化すると下のようである（下表右欄）。ここでは便宜上左欄に『オストロミール福音書』（以下 Ostr と略称）[補注] を据えて，対比できるようにした。Ostr がブルガリア由来の aprakos であり，かつ完本であること，その synaxarion（さらに menologion も）も一定の完成度を備えたものであると推定されることから，VP の原形がどうであったにせよ，ある程度 VP の synaxarion の形式を把握しうると考えたからである。

Ostr の左欄は Garzaniti（参考文献 C 2 を見よ）の〈Anhang I, Die Struktur des Ostromir-Evangeliums〉（pp. 481–508）中に掲載されている表を活用した。ただし，少々変更を加えた。以下本稿での表の構成を摘記する。

1. 全体に通し番号をふり，左欄は Ostr，右欄は VP の諸項目である。
2. 左欄第1に教会暦を示す。週と曜日等を示す。晩は晩課，典は典礼の略。
3. 同第2にアンモニオスの節区分番号（Am No と略す）を示す。

Garzaniti によるが，示された数字等に（　）が付された場合は，Garzaniti による訂正である。また Garzaniti のこの項目中には，Ostr のいわゆるカレンダー部分の全独訳と補記が付されているが，これらは省略した。特に Alleluia など VP に存しない指示などもあえて割愛した。もし必要の場合は，備考において記述する。

4. 同第 3 に当該 Am No に対応する聖句番号を示す。Востоков 刊本（参考文献 A 5）に付された聖句番号によるが，この番号と現行聖句番号とに時折若干のずれが存在するが，あえて前者に従う。又，Garzaniti において聖句番号に＊を付すものは，ペリコペーのテクストが省略の方式によって掲げられていることを表示するが，これも無視した。実在のテクストに則して聖句番号を掲げる。
5. 同第 4 に incipit（以下 Inc と省略）の型を示す。その際，Garzaniti の下位区分を生かしつつも，若干の変更を加えた。Inc の型は VP にも共通する事柄ゆえ，下記 10 にまとめて提示する。
6. 右欄第 1 には VP において，Ostr の当該日のペリコペーが存在するか否かを示す。その際，カレンダー部分（曜日の指示と Am No の指示等。以下 Z と略称）とペリコペーが一部分でも存する場合は○を，特に Z が欠在しペリコペーの一部が残存する場合は△を，すべて存在しない場合は×を付す。×はすなわち VP での佚亡箇所を主に，時に元来存在しなかった箇所と推定される。
7. 同第 2 に，当該項の出現箇所を，底本に付された葉番号に No をつけて示す。
8. 同第 3 に VP で指定された Am No を示す。
9. 同第 4 に，VP での残存テクストを底本に付された聖句番号によって示す。左欄の Ostr のそれと比較されたい。Ostr と若干のずれがあることについては 4 を見よ。
10. 同第 5 に Inc の型を示す。Ⅰ～Ⅵの慣行による型の外に，ここでは特

異例も含めて，Garzaniti の下位区分も多少生かしつつ，本稿では次のように定める[5]。この表示は表中 Ostr, VP 共用である。

ϕ　：Inc なし。あるいは型以外の語句があるもの。

I　：ВЪ ONO ВРѢМѦ

I′　：ВЪ ONO^{в}

I a：ВЪ ВРѢМѦ ONO

II　：РЄЧЄ $\overline{\text{ГЬ}}$ СВОИМЪ ОУЧЄNИКОМЪ

II a：РЄЧЄ $\overline{\text{ГЬ}}$ КЪ ОУЧЄNИКОМЪ СВОИМЪ

II b：РЄЧЄ $\overline{\text{ГЬ}}$ ОУЧЄNИКОМЪ СВОИМЪ

II c：РЄЧЄ $\overline{\text{ГЬ}}$ КЪ СВОИМЪ ОУЧЄNИКОМЪ

III　：РЄЧЄ $\overline{\text{ГЬ}}$ КЪ ПРИШЬДЪШИИМЪ КЪ NЮМОУ ИЮДЄОМЪ

III a：РЄЧЄ $\overline{\text{ГЬ}}$ КЪ ПРИШЬДЪШИИМЪ NЮМОУ ИЮДЄОМЪ

IV　：РЄЧЄ $\overline{\text{ГЬ}}$ КЪ ВѢРОВАВЪШИИМЪ КЪ NЮМОУ ИЮДЄОМЪ

IV a：РЄЧЄ $\overline{\text{ГЬ}}$ КЪ ВѢРОВАВЪШИИМЪ ВЪ N҃Ъ ИЮДЄОМЪ

V　：РЄЧЄ $\overline{\text{ГЬ}}$

VI　：РЄЧЄ $\overline{\text{ГЬ}}$ ПРИТЪЧѢ СИѢ

+α　：VP で，当該型に型以外の付加文を有するもの。

？　：VP で，ペリコペーのテクストを有しながらも，型が不明のもの。

11. 最右端に備考欄を設ける。＊つきの数字は表の終了後に記述する備考に対応する。これらは VP に関することが主であるが，必要に応じて Ostr に関しても言及する。

なお，VP の底本は独特の翻字法によって印刷されている。前稿同様，文字の大・小は無視し，jers の不明は▼で，юсы малый のヴァリアントの不明は▲で代行する。以下，引用綴りは原本のままとするが，上書きの文字は（　）を付して然るべき位置に戻すこととする。

VP と Ostr の synaxarion の構成対照表

通し番号	Ostr 教会暦		Ostr Am No	Ostr 聖句番号	Ostr Inc	VP ペリコペー存否	VP 底本葉 No	VP Am No	VP 残存テクスト聖句番号	VP Inc	備考
1	パスハ		J1	J1.1-17	∅	×					*1
2	後第1週	月	J8	J1.18-28	∅	×					*2
3		火	L339	L24.12-35	I	△	1-2		L24.23-35	?	
4		水	J16	J1.35-51	I	○	2	J16	J1.35-44	I	
5		木	J(24)	J3.1-15	I	×					*3
6		金	J20(19)	J2.12-22	I	×					
7		土	J25(24)	J3.22-33	I	△	3		J3.25-33	?	
8	同第2週	日	J213	J20.19-31	∅	○	3-4	J213	J20.19-26	∅	*4
9		月	J21(18)	J2.1-11	I	×					
10		火	J24	J3.16-21	II	△	5		J3.20-21	?	
11		水	J39	J5.17-24	III	○	5-6	J39	J5.17-24	III	*5
12		木	J41	J5.24-30	III	○	6-7	J41	J5.24-28, 30	III	*6
13		金	J42(41)	J5.30-6.2	III	○	7-9	J42	J5.30, 38-6.2	III	*7
14		土	J8	J6.14-27	I	○	9-10	J50 (sic)	J6.14-27	I	*8
15	同第3週	日	Mr227	Mr15.43-16.8	Ia	○	10	Mr227	Mr15.43-16.8	I	
16		月	J37	J4.46-54	Ia	○	11-12	J37	J4.46-54	I	
17		火	J52	J6.27-33	IV	○	12-13	J52	J6.27-33	III	*9
18		水	J55	J6.35-39	IV	○	13	J55	J6.35-39	IV	
19		木	J(58)	J6.39-44	III	○	13-14	J58	J6.39-44	III	*10
20		金	J63	J6.48-54	III	○	14-15	J63	J6.48-54	III	
21		土	J138	J15.17-16.2	II	○	15	J138	J15.17-18, 16.2	II	*11
22	同第4週	日	J38	J5.1-15	I	○	15-17	J38	J5.1-15	I	
23		月	J68	J6.56-69	IV	○	17-18	J68	J6.56-69	IVa	*12
24		火	J74(75)	J7.1-13	Ia	○	18-19	J75	J7.1-13	I	*13
25		水	J74(75)	J7.14-30	∅	○	19-21	J74 (sic)	J7.14-29	∅	*14
26		木	J86	J8.12-20	III	○	21-22	J86	J8.12-20	III	
27		金	J89	J8.21-30	IIIa	○	22	J89	J8.21-28	III	*15
28		土	J89	J8.31-42	IV	×					*16

29		日	J33	J4.5-42	I	△	23-26		J4.10-42	?	*17
30	同第5週	月	J79(89)	J8.42-51	Ⅲ	○	26	J29 (sic)	J8.42-49	Ⅲ	*18
31		火	J79(89)	J8.51-59, L4.30	V	×					*19
32		水	J49	J6.5-14	Ia	△	27		J6.11-14	?	
33		木	J89	J9.39-10.9	Ⅲ	○	27-28	J89	J9.39-10.9	Ⅲ	*20
34		金	J92	J10.17-28	Ⅲ	○	28-30	J92	J10.17-30	Ⅲ	*21
35		土	J92	J10.27-38	Ⅲ	○	30-31	J92	J10.27-38	Ⅲ	
36		日	J89	J9.1-38	Ia	○	31-35	J89	J9.1-38	I	*22
37	同第6週	月	J94	J11.47-54	Ia	○	35	J94	J11.47-54	I	*23
38		火	J102	J12.19-36	Ia+α	○	36-37	J102	J12.19-36	I+α	*24
39		水	J108	J12.36-47	Ⅲ	○	37-39	J108	J12.36-47	Ⅲ	
40		木	L340	L24.36-53	Ia	○	39-40	J340 (sic)	L24.36-53	I	*25
41		金	J127	J14.1-11	IIa	○	40	J127	J14.1	II	*26
42		土	J127	J14.10-17.21	IIa	×					*27
43		日	J153	J17.1-13	Ia	×					
44	同第7週	月	J132	J14.27-15.7	IIa	×					
45		火	J146	J16.2-13	IIa	×					
46		水	J148	J16.15-23	IIa	×					
47		木	J150	J16.23-33	IIa	×					
48		金	J153	J17.1, 18-26	Ia	×					
49		土	J226	J21.14-25	Ia	×					
50	ペンテコステ		J81	J7.37-52, 8.12	∅	△	41		J7.48-52, 8.12	?	*28
51	後第1	月	Mt181	Mt18.10-20	V	○	41-43	Mt181	Mt18.10-20	V	*29
52		土	Mt39	Mt5.42-48	V	○	43	Mt39	Mt5.42-48	V	*30
53		日	Mt93	Mt10.32-33, 37-38, 19.27-30	IIa	○	43-45	Mt93	Mt10.32-33, 37-38, 19.27-30	IIa	
54	同第2	土	Mt50	Mt7.1-8	V	○	45	Mt50	Mt7.1-8	V	
55		日	Mt20	Mt4.18-23	Ia	○	46	Mt20	Mt4.18-23	I	
56	同第3	土	Mt61	Mt7.24-8.4	V	○	46	Mt41 (sic)	Mt7.24-25	V	*31
57		日	Mt47	Mt6.22-33	V	×					*32
58	同第4	土	Mt67	Mt8.14-23	Ia	×					
59		日	Mt64	Mt8.5-13	Ia	×					

60	同第5	土	Mt 71	Mt 9.9–13	Ia	×					
61		日	Mt 69(74)	Mt 8.28–9.1	Ia	×					
62	同第6	土	Mt 69	Mt 9.18–26	Ia	×					
63		日	Mt 70	Mt 9.1–6, 8	Ia	×					
64	同第7	土	Mt 96	Mt 10.37–11.1	V	×					
65		日	Mt 75	Mt 9.27–35	Ia	×					
66	同第8	土	Mt 122	Mt 12.30–37	V	×					
67		日	Mt 146	Mt 14.14–22	Ia	×					
68	同第9	土	Mt 160	Mt 15.32–39	Ia	×					
69		日	Mt 147 (148)	Mt 14.22–34	Ia	×					
70	同第10	土	Mt 177	Mt 17.24–18.4	Ia	×					
71		日	Mt 174	Mt 17.14–23	Ia	△	47		Mt 17.20–23	?	
72	同第11	土	Mt 189	Mt 19.3–12	Ia	○	47–48	Mt 189	Mt 19.3–12	I	
73		日	Mt 188	Mt 18.23–35	VI	○	48–50	Mt 188	Mt 18.23–35	VI	
74	同第12	土	Mt 205	Mt 20.29–34	Ia	○	50	Mt 205	Mt 20.29–34	I	*33
75		日	Mt 193	Mt 19.16–26	Ia	○	50–51	Mt 193	Mt 19.16–26	I	*34
76	同第13	土	Mt 223	Mt 22.15–22	Ia	○	52	Mt 223	Mt 22.15–22	I	
77		日	Mt 219	Mt 21.33–42	VI	○	52–54	Mt 219	Mt 21.33–42	VI	
78	同第14	土	Mt 227	Mt 23.1–12	Ia	○	54–55	Mt 227	Mt 23.1–12	I	
79		日	Mt 221	Mt 22.2–14	VI	○	55–56	Mt 221	Mt 22.2–14	VI	
80	同第15	土	Mt 242	Mt 24.1–9, 13	Ia	○	57–58	Mt 242	Mt 24.1–13	I	*35
81		日	Mt 259 (224)	Mt 22.35–46	Ia	○	58–59	Mt 224	Mt 22.35–46	I	*36
82	同第16	土	Mt 259	Mt 24.34–44	IIb	○	59–60	Mt 259	Mt 24.34–44	IIa	
83		日	Mt 269	Mt 25.1, 14–29, L 8.8	VI	○	60	Mt 269	Mt 22.2, 25.14, 29	VI	*37
84	同第17	土	Mt 268	Mt 25.1–13, 24.44	VI	○	60	Mt 268	Mt 25.1, 13	VI	*38
85		日	Mt 157	Mt 15.21–28	Ia	○	60–61	Mt 157	Mt 15.21–28	I	
86	新年第1	土	L 23	L 4.31–36	Ia	○	62	L 23	L 4.31–36	I	*39
87		日	L 29	L 5.1–11	Ia	×					*40

88	同第2	土	L36	L5.17-26	Ia	×					
89		日	L54	L6.31-36	V	×					
90	同第3	土	L38	L5.27-32	Ia	×					
91		日	L67	L7.11-16	Ia	△	63		L7.12-16	?	
92	同第4	土	L41	L6.1-10	Ia	○	63-64	L65	L7.1-10	I	*41
93		日	L76	L8.5-15, 8.8	VI	○	64-65	L76	L8.5-14	VI	*42
94	同第5	土	L65	L7.1-10	Ia	×					*43
95		日	L196	L16.19-31	V	×					
96	同第6	土	L79	L8.16-21	II	×					
97		日	L83	L8.27-39	Ia	×					
98	同第7	土	L86	L9.1-6	Ia	×					
99		日	L85	L8.41-56	Ia	×					
100	同第8	土	L96(99)	L9.37-43	Ia	△	67		L9.39-43	?	*44
101		日	L121	L10.25-37	Ia	○	67-68	L121	L10.25-37	I	
102	同第9	土	L105	L9.57-62	Ia	○	68	L105	L9.57-59	I	*45
103		日	L149	L12.16-21, 8.8	VI	×					
104	同第10	土	L117	L10.19-21	IIb	×					
105		日	L164	L13.10-17	Ia	×					
106	同第11	土	L151	L13.32-40	V	×					
107		日	L181	L14.16-24, Mt22.14	VI	×					
108	同第12	土	L167	L13.19-29	VI	×					
109		日	L201	L17.12-19	Ia	×					
110	同第13	土	L176	L14.1-11	Ia	×					
111		日	L217 (218)	L18.18-27	Ia	△	69		L18.25-27	?	*46
112	同第14	土	L190	L16.10-15	V	○	69	[L190]	L16.10-15	V	*47
113		日	L224	L18.35-43	Ia	○	70	L224	L18.35-43	I	*48
114	同第15	土	L198	L17.3-10	V	○	70	L198	L17.3-6	V	*49
115		日	L225	L19.1-10	Ia	×					

116	同第16	土	L 214	L 18.2–8	VI	×					
117		日	L(Mt) 157	Mt 15.21–28	Ia	×					*50
118	同第17	土	L 246	L 20.46–21.4, L 8.8	IIa	×					
119		日	L 214	L 18.10–14	VI	○	71	L 214	L 18.10–14	VI	*51
120	同第18	土	L 124	L 11.5–13	IIa	×					*52
121		日	L 190	L 15.11–32	VI	○	72–74	L 197 (sic)	L 15.11–32	VI	*53
122	断肉	土	L 249	L 21.8–9, 25–27, 33–36	V	×					*54
123		日	Mt 273	Mt 25.31–46	V	○	74–76	Mt 273	Mt 25.31–37, 43–46	II	*55
124	断酪	土	Mt 42	Mt 6.1–13	V	○	76–77	Mt 42	Mt 6.1–13	V	*56
125		日	Mt 44	Mt 6.14–21	V	○	77–78	Mt 44	Mt 6.14–21	II	*57
126	大斎第1	土	Mr 24	Mr 2.23–3.5	Ia	○	78–79	Mr 24	Mr 2.23–3.5	I	*58
127		日	J 18	J 1.43–51	Ia	○	79–80	J 18	J 1.44–52	I	*59
128	同第2	土	Mr 17	Mr 1.35–44	Ia	○	80–81	Mr 17	Mr 1.35–44	I	*60
129		日	Mr 20	Mr 2.1–12	Ia	○	81–82	Mr 20	Mr 2.1–12	I	
130	同第3	土	Mr 21	Mr 2.14–17	Ia	○	82–83	Mr 74	Mr 7.31–37	I	*61
131		日	Mr 85	Mr 8.34–9.1	V	○	83–84	Mr 85	Mr 8.34–9.1	V	
132	同第4	土	Mr 74	Mr 7.31–37	Ia	○	84	Mr 82	Mr 8.27–31	Ia	*61
133		日	Mr 91	Mr 9.17–31	Ia+α	○	85–86	Mr 91	Mr 9.17–31	I+α	*62
134	同第5	土	Mr 82	Mr 8.27–31	Ia	○	86	Mr 22 (sic)	Mr 2.14–16	I	*61
							87	Mr 82	Mr 8.27, 31	I′	
135		日	Mr 112	Mr 10.32–45	Ia	○	87–88	Mr 112	Mr 10.32–45	I′	
136	同第6	土	J 94	J 11.1–45	Ia	○	89–90	J 94	J 11.1–31	I′	*63
137		日	Mt 206	Mt 21.1–11, 15–17	Ia	○	91–92	Mt 206	Mt 21.1–11, 15–17	I	*64
138		〃典	J 97	J 12.1–18	∅	△	91		J 12.10–18	?	*65
139	聖	月	Mt 243	Mt 24.3–35	Ia	○	93–95	Mt 243	Mt 24.3–35	I	*66
140		火	Mt 260	Mt 24.36–26.2	II	○	95–96	Mt 260	Mt 24.36–43, 25.3–4	IIa	*67
141		水	Mt 276	Mt 26.6–16	Ia	×					*68
142		木	J 122	J 13.1–11	∅	×					*69
143		〃晩	J 155	J 13.12–17	Ia	×					*70

144		〃典		Mt(274)	Mt 26.2-20, J 13.3-17, Mt 26.21-39 L 22.43-44, Mt 26.40-27.2	IIc	△	97-102		J 13.6-17, Mt 26.21-39, L 22.43-45, Mt 26.40-27.2		*71
145	週	受難	1	J(125)	J 13.31-18.1	IIc	×					*72
146			2	J186(156)	J 18.1-28	Ia	×					
147			3	J(Mt)306	Mt 26.57-75	Ia	×					
148			4	J 176	J 18.28-19.16	Ia	×					
149			5	Mt(319)	Mt 27.3-32	Ia	×					
150			6	Mr(207)	Mr 15.16-32	Ia	△	103-104		Mr 15.16-31	I	*73
151			7	Mt 332	Mt 27.33-54	Ia	×					
152			8	L 317	L 23.32-49	Ia	△	105-106		L 23.34-49	?	*74
153			9	J 202	J 19.25-37	Ia	○	106	J 202	J 19.25-31	I	*75
154			10	Mr 227	Mr 15.43-47	Ia	×					
155			11	J 206	J 19.38-42	Ia	×					
156			12	Mt 351	Mt 27.62-66	∅	×					*76
157		金		Mt 317	Mt 27.1-43, L 23.39-43, Mt 27.45-54, J 19.31-37, Mt 27.55-61	Ia	△	107-108		Mt 27.23-38, L 23.39-43, Mt 27.39-46	?	*77
158		土		Mt(351)	Mt 27.62	∅	×					*78
159		〃晩		Mt 352	Mt 28.1-20	∅	○	109-110	(Mt 352)	Mt 28.1-20	∅	*79
160	早課11の福音	1		Mt 357	Mt 28.16	∅	×					*80
161		2		Mr 230	Mr 16.1	Ia	×					*81
162		3		Mr 233	Mr 16.9-20	∅	△	111		Mr 16.19-20	?	*82
163		4		L 336	L 24.1-12	∅	○	111-112	L 336	L 24.1-12	∅	*83
164		5		L 339	L 24.12	Ia	○	112	L 339	L 24.12, 35		*84
165		6		L 340	L 24.36	Ia	○	112	L 340	L 24.36, 53	I	*85
166		7		J 209	J 20.1-10	∅	○	112-113	J 209	J 20.1-10	∅	*86
167		8		J 211	J 20.11-18	Ia	△	114		J 20.15-18	I?	*87
168		9		J 213	J 20.19	∅	○	114	J 213	J 20.19, 31	I	*88
169		10		J 219	J 21.1-14	Ia	○	114-115	J 210 (sic)	J 21.1-14	I	*89
170		11		J 226	J 21.14-15	Ia	○	115-116	J 226	J 21.14-15, 25	I	*90

［備考］

＊1　Ostr Inc ф〈ИСКОNИ БѢ СЛОВО〉. なお第1項から第3項前半（J 1. 1–17; J 1. 18–28; L 24. 12–22）は欠落していることになる。以下必要時をのぞいてはいちいち言及しない。

＊2　Ostr Inc ф〈БА NИКѢТОЖЄ〉.

＊3　VP No 2〜3 間に欠葉あり[6]。

＊4　Ostr Inc ф〈СѦЩОУ ПОZДѢ〉, VP Inc ф〈СѦЩИ ЖЄ ПОZДѢ〉. Ostr の Z 冒頭〈ВЪ . А. NЄ(Д). ПО ПАСЦѢ〉［パスハの後の第1日曜に］, VP Z〈NЄ(Д) В ANТИПА-(С).〉［アンティパスハという第2日曜に］。Ostr と VP は同義。詳しくは SJS を見よ。なお Ostr は上記引用文の次に〈NA NЄВѢРИЮ ѲОМИNO. СИ ЖЄ И ПАМАТЬ ІЄМОУ.〉なる一文が存するが，かかる文は VP になし。おおむね VP は日付けと Am No を記すにとどまる（例外あり）。VP No 4〜5 間に欠葉あり。

＊5　VP Z 前半に〈ВЪ СРѢ(Д) В NЄ(Д). ANТИПА(С)・〉とある。〈ANТИПА(С)〉は〈В NЄ(Д)〉にひかれて誤って書かれたものか。Ostr の当該箇所は〈ВЪ СРѢДѦ .В. NЄ-(Д).〉［第2週の水曜に］のみ。

＊6　VP Z 冒頭〈ВЪ Є В NЄ(Д)〉と〈木曜〉に〈Є〉を用いる。〈曜日〉に数詞をあてる方式は VP に頻繁にみられる。Ostr〈ВЪ ЧЄТВЬРТЪКЪ .В. NЄ(Д).〉. 又，VP は J 5. 28 半ばから同 29 全体が欠損。すなわち底本 No 6 の *l.* 24 後半から No 7 *l.* 4 迄不読。

＊7　VP Am No も〈J 41〉が正しい。又，J 5. 30 途中から同 37 迄欠損。

＊8　VP Am No を示す底本の〈N〉（＝50）は，〈И〉（＝8）の誤植か。

＊9　VP Z 冒頭〈ВЪ Г NЄ(Д)〉は〈ВЪ Г Г NЄ(Д)〉とあるべきで，数詞〈Г〉がひとつ脱落か。Ostr〈ВЪ ВЪТОРЬNИКЪ .Г. NЄ(Д).〉.

＊10　Ostr Am No 表示数詞ぬけ。VP〈NИ〉.

＊11　Ostr が J 15. 17 から 16. 2 迄，連続してテクストを掲載するのに対し，VP は J 15. 17–18 の前半，ついで J 16. 2 後半もつづけて記し，途中のテクストを省略する。VP の省略テクストは記されてはいないものの，ペリコペーとしては暗黙下に存在する。途中省略によるペリコペーの記載方式である。

＊12　VP Inc Ⅳa は特異である。Menologion も含めてここ1箇所にのみ出現する。

＊13　VP Am No は〈О Є〉（＝75）と正しく記されている。なお同 Inc は〈ВЪ ONO ВРѢМ▲。〉.

＊14　VP Am No は〈О Д〉（＝74）とあるが〈75〉の誤り。グラゴル文字との混同による誤認か。Ostr Inc ф〈ВЪ ПРѢПОЛОВЛІЄNИЄ〉, VP Inc Ф〈ВЪ ПРѢПОЛОВЄNИЄ〉.

＊15　Ostr Inc は〈РЄЧЄ ГЪ・КЪ ПРИШЬДѢШИИМЪ NІЄМОУ ИОУДЄОМЪ〉とあって，〈NІЄМОУ〉の前に前置詞〈КЪ〉がぬけおちている。n-epentheticum が付されているから前置詞があったことは予想され，したがって誤って脱落させたものであろう。Garzaniti は Inc を〈Ⅲ〉とし，注も付していないが，本稿では特異例とて，上記の如く〈Ⅲa〉とする。

＊16　VP No 22〜23 の間に欠葉あり。

＊17　底本 No 26 *l.* 1 初め〈ІЄГО・〉の次に聖句番号〈42〉ぬけ。

＊18　Ostr Am No〈ОѲ〉の〈О〉を，Garzaniti はグラゴル文字〈О〉（＝80）を誤認してキリル文字にそのまま転写し，〈79〉としたとする。正しくは〈89〉。VP Am No〈КѲ〉は，底本注によれば〈П Ѳ〉（＝89）。字体の相以による誤写であろう。

＊19　VP No 26 と 27 の間に欠葉あり。なお Ostr Am No〈79 (80)〉については＊18 を見よ。又，同聖句番号中に〈LK 4, 30〉の記載があるが，J 8. 59 のテクスト一部と L 4. 30 のそれが一致すると Garzaniti は言うのであろう。

＊20　VP Z〈ВЪ Д Є NЄ(Д) ѡ ИО(N)。ГЛА(В) П Ѳ〉［第5週の第4曜（＝水曜）に…］とあるが，〈第5曜＝木曜〉で〈Є〉とあるべきところ。〈Д〉はグラゴル文字では〈5〉を表示するから誤認による写し誤りの可能性がある。No 28 において〈金曜〉の Z にテ

クストが直結していることも，VP が〈木曜〉であることを傍証しよう。

＊21　VP のペリコペーにつき，13 世紀ブルガリアの aprakos である Врачанско евангелие（以下 Vrac と略称）でも，Ostr 同様ペリコペーは J 10. 17–28. 現行ロシア正教会版も同様である。（Ass は Ostr に同じ，Sav なし）。

＊22　VP Z 冒頭〈NЄ(B)〉の上書きの〈B〉は〈Д〉の誤り。底本に校訂注なし，単なる誤植か。

＊23　VP Z〈BЪ S̄ NЄ(Д) ѿ ИО(N) ГЛА(B) Ч̄ Д̄〉では，曜日を示す語を欠く。〈第 6 週月曜〉とみなす。Ostr〈BЪ ПОNЄДѢ(К)：S̄. NЄ(Д). ЄBA(Г)・ОТЪ ИОANA. ГЛА(B). Ч̄Д̄ ∴ ⊢〉.

＊24　Ostr, VP ともに Inc の後に〈СЪВѢТЪ СЪТВОРИША ФАРИСЄИ NA ІСА・〉を付加する。Garzaniti の注するごとく，Mt 12. 14 の摘記であろう。Mt 12. 14（Mar）〈ФАРИСѢИ ЖЄ ИШЄДЪШЄ СЪВѢТЪ СЪТВОРИША NA NЬ. КАКО И ПОГОУБАТЪ.〉.

＊25　VP Z において福音書名を〈J〉とするが，明らかに〈L〉の誤り。なお Ostr Z には日付けの指示の直後から Am No の直前まで Ascensio Domini（主の昇天，すなわち Pascha から 40 日目にあたる第 6 週木曜の祭日）に関する記事が存する。〈NA BЪZNЄCЄNИЄ ГNЄ. [...]〉[主の昇天のために。[…]]。これに対し，VP はかかる記事が存しないが，次項に引用する記載が〈第 6 週金曜〉に出現する。

＊26　VP では J 14.1 末からは省略され，以下に〈ИЩИ ЖЄ BЪ A ЄBANГЄЛИИ〉[第 1 の福音の中で捜せ] とある。すなわち，いわゆる〈12 の福音〉中の第 1 の福音を指し，VP では menologion 部分である No 170 *l.* 14 以下に存在する。No 40 において *l.* 18 の Z と，*l.* 24 の Inc との間，*l.* 20 から *l.* 22 に次のような Ascensio Domini に関係する記事が存在する。〈ПО BЪZNЄCЄNИИ ГѢ NAШЄГО ІУ ХА ‡ B̄ NA ІТЄ ЄBANГЄЛИА MѿЦѢ ЄГО・BЪ ПРЪBѢMЬ・... ИЩИ∴... СИХЪ∴...〉[われらが主，イエス・キリストの昇天 [祭] の後。彼の受難の 12 の福音その第 1 で [後略]]。Ostr にはかかる記事はない。VP は〈キリスト昇天祭〉の記事が〈第 6 週木曜〉には欠如しているが，上述の引用は明らかに〈第 6 週木曜〉が〈キリスト昇天祭〉の存在を前提としている。

＊27　VP No 40～41 間に欠葉あり。

＊28　Ostr Inc ϕ〈BЪ ПОСЛѢДЬNИИ ДЬNЬ〉.

＊29　Ostr Z 冒頭〈NA ОУТРИА. ПО. П̄.〉[ペンテコステ後の早課に]，VP Z 同〈BЪ ПО-(N) ПО ПЄNТИКОСТИ・〉[ペンテコステ後の月曜に]。

＊30　Ostr 57～57 v 白紙。58 右欄初めに заставка があり，そのもとに〈СѿБО(Т) И NЄ-(Д). ОТЪ ПАТИКОСТИА. ДО СТААГО ПОСТА.〉[ペンテコンテから大斎迄の土曜と日曜] とあり，ついで〈ペンテコステ後第 1 土曜〉の記事が続く。VP に前者の類は存在せず，後者に相当する Z のみを有する。

＊31　Ostr Am No〈ѧ̄А.〉(＝61)，VP Am No〈М̄ А̄〉(＝41). Ostr が正しい。VP はグラゴル文字の〈M〉(＝60) をキリル文字の数値に誤認したものであろう。なお VP は Mt 7. 25 末から欠損。

＊32　VP No 46～47 間に欠葉あり。

＊33　VP Inc I は〈BЪ OO(N) BPЪMA〉とある。〈OO(N)〉を〈ONO〉と解し，Inc I のヴァリアントとしては立てなかった。なお底本 No 50 の標題中〈[Mt] 20：29–33〉の〈33〉は〈34〉の誤り。

＊34　VP No 51 *l.* 26 末欠損，すなわち Mt 19. 26 末欠け。

＊35　Ostr は Mt 24. 9 の次に Mt 24. 13 が直結する。現行は VP 同様，Mt 24. 1–13 と連続。ただし Ostr では Mt 24. 10–12 は 144 にあり。本表第 139 項を見よ。

＊36　ともに Am No は〈224〉が正しい。Ostr は次項〈第 16 土曜〉と誤ったか。

＊37　Ostr Inc VI に続く〈ОУБОДОБИ СА ЦРСТВИЄ NБСЬNОЮ・ЧЛКОУ ЦРОУ〉を，Garzaniti は Mt 25. 1 とするが(sic)，テクスト上は Mt 22. 2 に合致する。Mt 22. 2（Mar）

〈(ОУ)ПОДОБИ СА ЦСРСТВИЄ НБСКОЄ. ЧЛКОУ ЦРЮ. ІЖЄ [...]〉, Cf. Mt 25. 1 (Mar) 〈ТЪГДА ОУПОДОБИТЪ СА ЦСРСТВЄ НБСКОЄ ДЄСАТИ ДѢВЪ. ЬАЖЄ [...]〉. 従って，VP も当該部分〈ОУПОДОБИ СА ЦРСО НБСNОЮ ЧЛКОУ ЦРОУ 14 ИЖЄ〉は Mt 22. 2 と認定する。又，*l.* 15〈И ОВОМОУ〉は厳密には Mt 25. 15 の冒頭であるが，今は度外視する。さらに VP の Mt 25. 14 も同 29 も一部の引用であり，同 15-28 は故意の省略である。なお Garzaniti は Ostr のペリコペー末の Mt 25. 29 後半を L 8. 8 とみる。詳述は避けるが，この L 8. 8 も含めて，特に aprakos においては Mt 25. 29 とみなしていた伝統があったようである。Cf. Vrac の menologion 中 p. 123 に〈29. ИМАЩОМОУ [...] И ВЪЗАТО БѢДЄТЪ ѿ NЄГО. (И) СЄ ГЛА ВЬЗЬГЛАСИ. ИМѢѢИ ОУШИ СЛЫШАТИ ДА СЛЫШИТЪ.〉，ただし tetra-evangelium の Zog, Mar，さらに aprakos の Ass も〈ОТЪ NЄГО〉で Mt 25. 29 は終わる。ここでは，VP の Mt 25. 29 を底本校訂どおり〈[...] ДА СЛЫШИТЪ.〉迄とみておく。

＊38　Ostr のペリコペー中，Garzaniti が Mt 24. 44 を掲げるのは，Mt 25. 13 の後半〈ВЪ NЬЖЄ〉以下をそのように認定するからである。ここでは VP については底本に付された聖句番号に従う。なお *l.* 20（Mt 25. 1）〈ПОДОБЬNO ЮСТЪ〉は，Zog〈ОУПОДОБИ СА〉, Mar, Ass〈ПОДОБИТЪ СА〉.〈ПОДОБЬNO ЮСТЪ〉とあるのは Ostr の外，12 世紀ロシアの Юрьевское ев. の menologion 中と 13～14 世紀ブルガリアの Орбельское ев. の synaxarion 中である。

＊39　Ostr は 89 左欄冒頭に заставка が描かれ，その下に〈СѢ(Б) .А. NАЧАТЪКЪ. NОВОУОУМОУ ЛѢТОУ.〉［新年の初めにして第 1 土曜］とあり，次に Am No の指示が続く。VP は〈СО(Б) А NОВОУМОУ ЛѢТОУ [...]〉［新年の第 1 土曜…］とあるのみ。なお VP No 62 は *l.* 1～9 が欠損。又，Z の欄外に〈Ꙁ〉の大文字が書かれている。〈ЗАЧАЧО〉の略号で，tetra から引用の際の残存か。Cf. Mar L 4. 31 の直前（*l.* 25 末）。なお＊51 参照。

＊40　VP No 62～64 間欠葉。

＊41　この第 92 項では，明らかにペリコペーの指定が Ostr と VP で異なる。VP のこのペリコペー全体（Z を含む）は，前項第 91（新年第 3 日曜）のペリコペー末 L 7. 16 と連続しているが，結論的には第 94 項（新年第 5 土曜）に配されるべきものではないか。（ただし，VP の同項は欠損しており，ここにいかなるペリコペーがあったか不明）。Ass, Sav, Vrac の各 aprakos でも新年第 5 土曜は，Ostr のペリコペー同様，L 7. 1-10 である。おそらく VP の〈СО(Б) Д〉の〈Д〉は，この文字がグラゴル文字で〈5〉を表わし，キリル文字で〈4〉を表わすゆえ，混同し誤認したものであろう。

＊42　第 93 項は Ostr，VP 一致する。（前項参照）。なお Ostr につき，Garzaniti はペリコペー内に L 8. 8 を付加するが，これは L 8. 15 の末を L 8. 8 と解することによる。（＊37 参照）。ここでは VP において L 8. 14 末から欠損があるゆえ，言及しない。Ostr, VP ともに Inc を VI とするが，厳密に言えば L 8. 4 末に（Mar）〈∵ РЄЧЄ ГЪ ПРИТЪЧѢ СИѢ ВЪ NИМЪ.〉とあるから，L 8. 4 とすべきかも知れないが，今は IncVI として再利用されたものとみておく。

＊43　底本中に VP No 66 は一部残存するものの，解読できずとある。この No 66 が第 94 項～第 99 項のどこにあたるかは無論不明。さらに，No 65～67 間に欠葉もあったとみられる。

＊44　Ostr Am No は，Garzaniti が示すように，〈99〉が正しい。

＊45　VP, L 9. 59 末より次葉にテクストがあったと思われる。従って，No 68～69 間に欠葉あり。

＊46　Ostr Am No は〈218〉が正。

＊47　VP に Z なし。すなわち，No 69 *l.* 7 でこれより前のペリコペーの最後部である L 18. 27 が終わり，同 *l.* 8 に IncV がきて，ついで L 16. 10-15 のペリコペーのテクストのみが

記され，後者の Z が存在しない。（校訂注なし）。しかし Inc の存在により，Ostr の〈第 14 土曜〉にあたると判定する。

＊48　Ostr の Z 冒頭が〈NЄ(Д). ДІ.〉であるのに対し，VP 同は〈ЄB(Г) NЄ(Д) ДІ〉とある。又，同 *l.* 18 に，左に凸出した上一部テクスト行頭を侵して，〈ЄBA(Г)〉の文字が存在する。＊51 参照。

＊49　VP の Z はこれ迄 1 行どりで書かれていたが，ここでは *l.* 19 の半ばから書かれている。すなわち，*l.* 19 の先頭はその前のペリコペーの末尾が書かれており，ついで本項の Z がくる。又，L 17.6 は次葉にかかっていて，その部分テクスト欠。よって，No 70〜71 間に欠葉あり。

＊50　Ostr の Z での指示とペリコペーの実際から，〈L 157〉は〈Mt 157〉の誤りである。Garzaniti の注も参照せよ。

＊51　VP Z 冒頭〈ЄBA(Г) IZ〉の〈IZ〉は〈ZI〉の誤記であろう。SJS が用例として示すように 10 の位を初めに書く例があったようである。Mr 5. 42 (Zog)〈... БѢ БО ЛѢТОМА І Б •〉，(Mar)〈БѢ БО ЛѢТОМА ДЪВѢМА NA ДЄСАТЄ.〉（なお Zog の〈І〉はこの場合〈I〉である）。ギリシア語原文は〈ἦν γὰρ ἐτῶν δώδεκα.〉であるが，〈δώδεκα〉は〈ιβ′〉と表記されるから，10 の位は初めにくる。〈16〉は〈ιϛ′〉と表記されるから，かかるごとくスラヴ語にも影響を及ぼしたのであろう。ここで述べている現象は第 121 項でもみられる。なお，〈ペンテコステ後第 17 週土曜〉〈同日曜〉（第 84，85 項）では，それぞれ〈ZI〉と通常どおり表記している。VP No 71 *l.* 1〜10 は底本にてテクストの掲載なし。注に *l.* 2〜3 の左欄に〈ЄBA〉，3〜4 同に〈ZA〉とあるという。Востоков 刊本 116 б でペリコペー冒頭を L 18. 9 とするが，同所末尾に〈ПРИТЪЧѦ СИѦ〉の語がみえるが，IncVI とみる方が正しいであろう。Garzaniti にも注あり。VP No 71 は *l.* 11〜27 でペリコペー全体のテクストが揃っている。

＊52　VP には元来この項がなかったであろう。No 71 は fol 7r に，No 72 は fol 7v と同一葉の表裏に書かれており，しかも前者は上述したごとく，ひとつのペリコペーの最後迄テクストを有し，後者 *l.* 1 は〈第 18 日曜〉の Z から始まる故である。

＊53　Ostr Z 冒頭〈NЄ(Д) .ИІ. ПРѢ(Ж) MA(C) ПОУ(C). O БЛѦДNѢM. CNѢ：〉[肉断ちの週の前，第 18 日曜。放蕩息子について。] とあるが，VP 同は〈NЄ(Д) IZ NO(B) ЛѢ(T) •〉[新年の第 17 (sic) 日曜] とあるのみ。VP の〈IZ〉は＊51 で述べたごとく〈ZI〉に同じ。ただし，ここでは〈Z〉を〈S〉と混同したものか。しかもグラゴルの〈IS〉(＝SI＝18) を，すでに同音価であったと推定される〈Z〉を〈S〉に誤って〈IZ〉としたものとみられる。よって，ここでは〈新年の第 18 日曜〉にあたるとみる。VP Am No〈197〉はペリコペーの内容からみて，Ostr と同様の〈190〉が正しい。

＊54　VP No 74 において〈新年の第 18 日曜〉のペリコペーと〈肉断ちの週の日曜〉の Z，ついでそのペリコペーが連続しているから，VP には元来この項は存在しなかったであろう。

＊55　VP のペリコペー中，Mt 25. 37 後半迄 No 74 に掲載あり。次葉 No 75 の *l.* 1〜18 半ば迄テクスト解読なし。No 75 には Mt 25. 43-45 の途中迄記され，ペリコペー最後の Mt 25.46 は No 76 の *l.* 4 迄続く。

＊56　Ostr Z 冒頭〈CѦ(Б). СЪРОПОУСТЬNАІА. ...〉に対し，VP 同は〈ВЪ CO(Б) СЪРОПОУСТЬNѦІѦ...〉とある。しかも 1 行どりではなく，*l.* 4 の途中から記される。

＊57　Ostr Z 冒頭〈NЄ(Д). СЪРОПОУСТЬНАІА...〉[7] に対し，VP 同は〈NЄ(Д) СЪРОПОУСТЬNA •...〉とあり，形容詞の form は広義の bulgarisme である。ここでも Z は 1 行どりされず，*l.* 18 の途中から記される。

＊58　Ostr は 127 左欄初めに заставка を描き，その下に Am No 指示前迄こうある。〈CѦ-(Б). A. CTTO ПОСТА. ВЪ NЄИЖЄ БЪВАЄТЬ ПА(T). CTTO M(Ч)KA. ѲЄОДОРА.〉[大斎（四句節）の第 1 土曜。この日に聖なる殉教者テオドーロスの記念がなされる]。

これに対し VP 同も〈CO(Б) А̄ ПОСТА・СТМ̄ОУ МЧ̄КОУ ѲЄОДОРОУ〉と簡略に同内容を示す。VP の synaxarion において Z に祝祭対象の聖人名が記されるのは珍しい。なお Z は 1 行どりされず，*l.* 16 の半ばから記される。

＊59　Ostr の〈J 1. 43-51〉と VP の〈J 1. 44-52〉は番号づけが異なるだけで，同一のテクストをさす。前者は一部スラヴ訳伝統の区分。ただし Am No J 18 の開始は J 1. 44 であり，ふつう J 1. 43 は Am No J 17 の末にあたる。なお Ostr Z 冒頭，日付け指示の後〈ВЪ NЄИЖЄ БЪВАЮТЬ ПА(Т) ПРРКОМЪ. МОИСИ. И АРОNОУ. И ПРОЧИМЪ ПРОРОКОМЪ.〉［この日に預言者モーセとアーローン，およびその他の預言者達のための記念がなされる。］とあるが，VP Z は〈NЄ(Д) А̄ ПОСТА ѡ̄ ИОА(N) ГЛА(В) ИӢ〉とあるのみである。なお〈ИӢ〉は〈ИІ̄〉と同価。＊51 参照。

＊60　VP 刊本 No 80 *l.* 26 中央〈... ТЄБЄ・〉の直後に〈38〉の聖句番号をつけ忘れている。（従って，No 80 タイトル末も〈Mr 1：35-37〉は〈Mr 1：35-38〉の誤り）。ただし同 Mr 1. 38 の末はテクストが欠損。又，VP の Z 末，指定 Am No を〈ІZ̄〉とするのは，これまでと同様，通常〈Z̄І〉と表記すべきもの。

＊61　以下第 130，132，134 項に互いに関連した問題が存するので，一括して扱う。第 130 項では Ostr と VP において Am No を含むペリコペーが全く異なる。VP の Mr 74 のペリコペーは，Ostr の第 132 項すなわち〈大斎第 4 土曜〉と一致する。VP の〈大斎第 3 土曜〉の Z とペリコペーは，No 82 において〈大斎第 2 日曜〉のペリコペー末（*l.* 24）の直後（*l.* 25）に書かれているから，連続しているものとみなしてよい。ただし，第 134 項（大斎第 5 土曜の並出されたペリコペーの一方 Mr 2. 14-16）に大略一致する。次に，第 132 項（大斎第 4 土曜）の Ostr と VP のペリコペーが異なる。VP のペリコペー Mr 8. 27-31 は，Ostr の第 134 項（大斎第 5 土曜）に一致する。なお前項とは No 84 *l.* 11 で連続している。ただ，さらに錯綜しているのは，第 134 項（大斎第 5 土曜）の並出された他方のペリコペーとして Mr 8. 27, 31 を掲げている点である。省略方式によるテクストの掲げ方だが，内容的には Mr 82（Mr 8. 27-31）を指し，よって Ostr の第 134 項（大斎第 5 土曜）と一致することになる。第 134 項の VP は他項と異なり，ペリコペーを二様示す。すなわち，No 86 *l.* 17〈CO(Б) Є̄ ЄВАНГЄЛИЄ ОТЪ МАРКА ГЛА(В) К̄ В̄〉［第 5 土曜。マルコによる福音第 22 節。］，No 87 *l.* 1〈CO(Б) Є̄ ПО(С) ЄВАНГЄЛИЄ И(Н) МА(Р) ГЛА(В) П̄В〉［大斎の第 5 土曜。他のマルコの福音第 82 節。］とある。（前者第 22 節は第 21 節の誤り）。その後各々Mr 2. 14-16（ただし末欠損），Mr 8. 27, 31 のペリコペーの初めと終わり部分を掲げる。かつ又，*l.* 5 の Mr 8. 31 に〈：〉を区切りとして〈... ПРѢЖДЄ/ВЪСПА$^{3+}_{4+}$ ЄВАNГЄЛИЄ〉と *l.* 4, 5 にあり，*l.* 6〜11 は解読できずという。（Cf. No 40, *l.* 20-23）。以上，前掲の問題はどのように考えるべきか。VP の〈大斎第 3 土曜〉，同〈第 4 土曜〉に関してはグラゴル文字とキリル文字の数値の混同も考えられるが，他文献にあたってみると事情は複雑のようである。今，Ass, Sav, Vrac および現行ロシア正教会版の場合をとり上げる。結論的には，Ass および現行ロシア正教会版は Ostr に同じ。これに対し，Sav と Vrac は VP と同じである。ただし，Sav も Vrac も〈大斎第 5 土曜〉については Mr 2. 14-16 のペリコペーのみで，もう一方の Mr 8. 27-31 は示されない。以上から，とりわけ VP には〈大斎第 5 土曜〉に二様のペリコペーを示す点から勘案して，大斎第 3・4・5 土曜については，少なくとも 2 つの異なったペリコペー配分が存在したと言えよう。（ここでも Ostr と Ass の近親性が感じられる）。

＊62　VP Inc I ＋α〈ВЪ ОNО ВРѢМА ЧЛ̄КЪ ЄТЄРЪ ПРИДЄ КЪ ІС̄ВИ・КЛАNѢА СА ЄМОУ И ГЛ̄А・〉，Ostr Inc I a＋α〈ВЪ ВРѢМА ОNО・ЧЛ̄КЪ ЮДИNЪ・ПРИДЄ КЪ ИІ̄СОВИ・КЛАNѢАА СА ЮМОУ И ГЛ̄ЮА〉. Cf. Mr 9. 17 (Mar)〈І ОТЪВѢШТАВЪ ЄДИNЪ ОТЪ NАРОДА РЄЧЄ. ОУЧИТЄЛЮ [...]〉.

＊63　VP は No 89 *l.* 2 より Z が始まり，No 90 *l.* 30 迄，J 11.1 から同 31 の半ば迄テクスト

を記す。それ以降は次葉に存在したと思われる。であれば，その葉は欠落。おそらく，この欠落した葉には J 11. 1 半ば以降から J 11. 45 が存在し，ついで J 12. 1–9 が書かれていたのではないか。後者は Ostr の第 138 項〈大斎第 6 日曜典礼〉の前半にあたる部分である。よって，Ostr と VP とは同〈典礼〉の配置が前後することになる。

＊64　VP の Z 前半〈ВЪ NЄ(Д) ЦВѢТONOСЬNѢІѢ ҐA OУТРА・〉［花（枝）の日曜に，早朝に。］とある。Ostr 同は〈B (sic) NЄ(Д) ЦВѢТONOСЪNЪІA ҐAOӮТРА.〉［花の日曜に，早課。］と同義。

＊65　Ostr Inc ϕ〈ПРѢЖДЄ ШЄСТІ〉. その Z は〈A СЄ NA ЛИТѲРГИ.〉［そして見よ，典礼において。］とある。なお VP での配置については＊63 を参照せよ。今，Ostr と合わせるために第 138 項に VP を記入したが，VP での配列は第 137 の直前である。

＊66　VP Z 冒頭〈ВЪ ПО(К) СВ̄ТЪІA NЄ(Д)〉［聖週（受難週）の月曜に］とあるのに対し，Ostr〈ВЪ ПО(N)ДѢ(К)∴ПО ЦВѢТЬNѢИ. NДѢ(Л)∴〉［花の日曜の後の月曜に。］とある。なお VP No 94 において Mt 24.26 の冒頭部分は *l.* 19 と *l.* 20 の行間に書かれていると校訂注はいう。

＊67　VP Z 冒頭〈BT(К) СТ̄ЪІA NЄ(Д)〉［聖週の火曜］と表示されるのに対し，Ostr 同〈B BT(P)NКЪ В̄ЛКЪІA NЄ(Л):·〉［聖週の火曜日に。］とある。VP が次の火曜にも〈聖週〉に〈СВАТАІА NЄДѢЛІА〉を用いるのに対し，Ostr の火・水・木曜は〈ВЄЛИКАІА NЄДѢЛІА〉を用いる。もとより同義である。なお，VP Z 後半〈ЄВА(Г) ѿ MA(Ѳ) ГЛА(Д) С̄ а̄〉の〈ГЛА(Д)〉の上書き〈Д〉は〈B〉の誤植か。又，VP は No 96 において *l.* 3〜23，26 以下欠損。（さらに同上欄，左欄等にグラゴル文字を含む種々の書き入れ，テクストがあると校訂注にあり）。すなわち，Mt 24.43 半ばから Mt 25.1-2，および Mt 25.4 末から同 46，さらに Mt 26.1-2 なし。よって，No 96 と 97 の間にこれらを含む欠葉あり。

＊68　上述の欠葉に，さらに第 141 項から 144 項前半を含む欠葉あるか。なお，Ostr の Inc〈ВЪ ВРѢ(М) ONO.〉は〈M〉が上書きされているが，I a とみなした。

＊69　Ostr の Z 中〈NA Ѳ(М)ВИЄ〉［洗［足の典礼］において］とある。さらに Inc ϕ〈ПРѢЖДЄ ПРАҐДЬNИКА〉. Garzaniti の引用〈prazdnika〉に誤りあり。

＊70　Ostr の Z 前半〈NA ОУМЪВЄNИЄ NOГ (sic) AMA ВЄЧЄРЪ.〉［洗足［の典礼］において，晩に。］

＊71　Ostr の Z 冒頭〈ВЪ ЧЄ(К). ВЄ(Ч). ВЄЛИ(К) NA ЛИТОУРГИИ.〉［大木曜に，晩に，典礼において］。VP は表で示したごとく，Z もペリコペー初めの Mt 26. 2–20 および J 13. 6 前半迄を欠く。これは＊68 で述べた欠葉中に存在していたと考える。又，Ostr のペリコペー中 L 22. 43–44 は，VP では L 22. 43–45 となっているが，L 22. 45 は冒頭のみである。Ass, Sav, Vrac も VP と同じ。VP No 102 は，*l.* 20 初め迄テクストがあって，以下解読できずと注する。

＊72　VP No 102 と 103 の間に欠葉あり。なお第 145 項の Ostr では，заставка の下に〈ЄВАNГЄЛИЄ ВЪ ПРѢСТ̄ѢІѢ MѢКѢ Г̄A NAШЄГО І̄С Х̄А̄. NA ТА ФАТИ. ОТЪ ИОАNA. ∴・•—〉［われらが主，イエス・キリストのいとも聖なる受難への，［すなわち］*τὰ πάθη*（受難の典礼）におけるヨハネによる福音。］とある。Am No は示されず，Inc の次に J 13. 31 が続く。Ostr の Am No は第 145〜147，149〜150，158 項迄，Garzaniti が訂正して示すとおりである。

＊73　VP は，No 103 *l.* 29 に〈B〉で始まるテクストがあるとして，Inc I ついで Mr 15. 16 を想定すると注する。これにより，Inc は I とみておく。よって No 103 *l.* 29 から当該ペリコペーは始まるとみられるが，No 104 *l.* 29 迄書かれたテクストは Mr 15. 31 の前 3 分の 2 程であり，以下次葉に続くとみられる。しかし，No 104 と 105 の間に次葉あり。

＊74　VP の L 23. 34 は末尾部分のみ。

＊75　VP の J 19. 32 以降は次葉から続くか。ただし次葉を含む欠葉が No 106 と 107 の間に

存在する。

＊76　Ostr Inc φ 〈ВЪ ОУТРЬНИИ ДЬNЬ・〉.

＊77　Ostr の Z 冒頭 〈ВЪ ПА(ТК) СВ҃ТЫИ.〉［聖なる金曜に。］。VP のペリコペー Mt 27. 23 の冒頭部分以前は欠損。注目すべきは Ostr が Mt 27. 1–43 と 43 迄達しているのに対し，VP は同 38 で終了。次に間断なく L 23. 39–43 へと続き，L 23. 43 の次に Mt 27. 39 以降が出てくることである。そして VP は Mt 27. 46 の冒頭 1 語迄を記す。(No 108 *l.* 28 〈ПРИ〉の直前，聖句番号〈46〉ぬけ。従って，No 108 のタイトルも〈... Mt 27：39–46〉とすべき)。よって，Mt 27. 46 の〈ПРИ〉以降は次葉で，従って No 108 と 109 に欠葉あり。なお〈聖金曜〉の名の下に，Ass も Vrac もペリコペーは Ostr と完全に一致する。Sav は〈12 の福音〉の名の下に構成を異にする。故に，VP のペリコペーは，欠損があるものの，前者のグループに近いが，小異を有するということか。

＊78　Ostr Inc φ 〈ВЪ ОУТРЬНИИ ДЬNЬ・〉. なお Z 冒頭に 〈ВЪ СТ҃ЫѢ ВЄЛИКОУѢ. СѢБОТѢ. NA ОУТРЬNИЦИ.〉［聖なる大土曜に。早課において。］とあり，Mt 27. 62 の前半のみを記し，その下に〈ИШТИ ВЪ ТА ПАѲИХ・ВІ·∴·←〉［主の受難の典礼中，12 を捜せ。］とある。Ostr の 195–195 v に Mt 27. 62–66 のペリコペーあり。

＊79　VP に Z なし。*l.* 1 より直に Mt 28. 1 が始まる。おそらく，Z は欠落した前葉末にあったか。Inc φ 〈ВЪ ВЄЧЄРЪ СОБОТЬNЪИИ〉［土曜の晩に］。Ostr の Z 冒頭は〈ВЪ СѢ-(Б). ВЄЧЄРЪ.〉［土曜に，晩に。］。Inc φ 〈ВЪ ВЄЧЄРЪ СѢБОТЬNЪИИ・〉. 次に，VP No 110 の *l.* 23～28 には заставка 等が確認できるとある。この заставка は，ここから日曜の早課 11 の福音が開始されることを示す区切りであろう。Ostr での場合は次項をみよ。VP No 110 と 111 の間に欠葉あり。

＊80　Ostr 204 v 左欄には中ほどに заставка があり，その下に Z が続く。同 Z 〈А҃ ∈ ЄВА-(Г). ZАОУТРЬNЫАѢ (АІ). ЄВА(Г). ОТЪ МАТѲЄА. ГЛА(В). ТN҃Z ・÷・←〉［1. 11 の早課の福音。マタイによる福音。第 357 節。］。Inc φ 〈ІЄДИNЪІ NA ДЄСАТЄ ОУЧЄNИКЪ・〉. 次に 1 行テクストがあるのみで，以下は略されている。なお Garzaniti も注するように，Am No は Tischendorf では〈355〉.

＊81　Ostr の Z を含むペリコペーは前項同様略記されている。ただし末尾に〈ИШТИ. NЄ(Д). Г҃. ОТЪ ВЄЛИ(К) ДЬNЄ·∴·←〉［祝祭日のうち第 3 日曜を捜せ。］とある。17 v から Mr 16. 1–8 あり。なお VP の第 161 項は，校訂注からみて，No 110 *l.* 22 に Inc I があったかも知れない。

＊82　VP の No 111 は，Mr 16. 19 の初めからテクストを有する。よって VP 刊本は〈19〉の聖句番号を付すべきである。Ostr Inc φ 〈ВЪСКРЬСЪ ИІС҃・〉.

＊83　VP Inc φ 〈ВЪ ЄДИNѢ ЖЄ СОБОТЪ〉, Ostr Inc φ 〈ВЪ ІЄДИNЪІИ ЖЄ СѢБОТЫ・〉.

＊84　VP は Z と Inc を有するが，L 24.12 の前半と同 35 の後部のテクストのみを掲げ，次に〈ИЩИ ВЪ ВЪТОРЬNИКЪ СТ҃ЪИ NЄ(Д)〉［光明の週（パスハ後第 1 週）火曜において捜せ。］とある。略記の方式である。No 1～2 に L 24. 23–35 と，当該ペリコペーの一部が存する。Ostr は Z と Inc について，L 24. 12 の前半のテクストのみを掲げ，VP 同様の検索を命じているのみである。略記の方式である。Ostr 4～6 に L 24. 12–35 あり。

＊85　VP, Ostr ともに Z を有するものの，ペリコペーのテクストは略記されている。VP は Inc の次に L 24. 36 の中間部分と，同 53 末尾のテクストのみが示され，ついで〈ИЩИ ВЪ ЧЄТВРЬТЪКЪ Є҃ NЄ(Д) NA ВЪZNЄСЄNИЄ ГN҃Є・〉［主の昇天祭において，［すなわちパスハ後第 5 週］木曜中に捜せ。］とある。Ostr も Inc の次に L 24. 36 の中間部分のみが示され，ついで〈ИЩИ ВЪ ЧЄТВРЪТЪК・Є҃ NЄ(Д). NA ВЪZNЄСЄ(N). ГN҃Є ∴·←〉. ただし，VP, Ostr ともに〈Є҃〉は〈S҃〉の誤り。グラゴル文字との混同が原因である。従って〈第 6 週〉が正しい。VP は No 39～40 に，Ostr は 44～45 v に L 12. 36–53 のテクストがそれぞれ存する。

＊86　Ostr Inc φ 〈ВЪ ІЄДИNЪІИ ЖЄ СѢБОТЫ・〉, VP Inc φ 〈ВЪ ЄДИNѢ ЖЄ СОБОТЪ・〉.

VP は No 113 の *l.* 12 でペリコペー末 J 20. 10 迄を掲げる。以下テクスト掲載なし。次項参照。

＊87　VP No 113 校訂注に *l.* 14 には〈B〉大文字がみえるとあり，〈BЪ ONO BPЪMA〉と解せるようで，さらに No 114 が *l.* 1 から J 20. 15 後半より同 18 迄テクストを掲げることから，〈第 8 の福音〉は No 113 後半から記載されていたと思われる。よって，上記校訂注を考えに入れて VP の Inc を〈I ?〉とした。なお Garzaniti も注するごとく，Ostr は Am No がファクシミリ版で見ると〈C҃ЛЇ〉とあるが，Востоков 刊本は〈C҃AЇ〉と翻刻する。前者は誤記であり，Am No としては後者が正しい。

＊88　VP，Ostr ともに略記による。VP は Inc の次に J 20. 19 冒頭と同 31 の末のテクストを掲げ，ついで〈ИЩИ BЪ ИOANЪ ANЬTИПACXA〉［アンティパスハ（＝パスハ後の第 1 日曜）[8] のヨハネ［による福音］中を捜せ。］と指示する。VP には No 4 に J 20. 19-26 のテクストが存する。（26 途中より欠損）。Ostr は Z の下に Inc ϕ〈CѢШTOУ ПOZ ДЪ〉以下 2 語を記すのみ。ついで〈ИЩИ. NЄ(Д). A҃. ПO ПACЦЪ·⁝·←〉［パスハ後の第 1 日曜を捜せ。］とある。10 v～11 v に J 20. 19-31 あり。

＊89　VP の Am No は〈219〉の誤り。Ostr の Востоков 刊本では J 21. 14 の標示，印刷もれ。

＊90　VP, Ostr ともに略記。VP は Inc の次に J 21. 14 と 15 の大部分（底本 No 116 *l.* 1 の〈И〉の前に聖句番号〈15〉を入れるべき）および，同 25 の末尾を掲げる。ついで〈ИЩИ〉とのみあり，以下の句は欠損。テクストは menologion 部分（No 158～159）に J 21. 24-25 があるのみである。Ostr は Inc の後に J 21. 14 の大部分と，同 15 の一部を記すのみ。その下に〈ПРЪ(Ж) ЮCTЬ ПИCA(N). BЪ C҃Ѣ(Б). Z҃ NЄДЪ(Л). OTЪ BЄЛИ(K). ДЬ(N).〉［祝祭日のうち第 7 週の土曜中に，すでに書かれてあり。］とある。（Востоков 刊本〈BЄAИ(K)〉は誤り）。53～54（J 21. 14-15）がそれである。なお VP, Ostr 共にこの項について，もうひとつの部門すなわち menologion の開始を示す заставка を有する。VP は No 116 の *l.* 3 で，Ostr は 210 v 右欄 *l.* 1 で，それぞれ synaxarion が終了する。

4. VP の synaxarion の構成の特徴

以上，われわれ自身の関心を軸にして，恣意的に Ostr の synaxarion がひとつの完成形であると見たて，かつ Ostr の底本がブルガリア由来であることを前提として，VP の synaxarion の構成を Ostr のそれと単純に比較してみた。するとそこから，次のような結論めいた感想を得る。

1)　VP の底本はグラゴル文字で書かれた aprakos[9]。しかもその複数を見ていた可能性がある。

2)　VP の synaxarion は，その構成上，スラヴでの aprakos 編集史上，創草期に位置するのではないか。

1) については，数字表記に関しグラゴル文字・キリル文字の数値及び表記

の誤認がかなり存在し，出現するキリル文字をグラゴル文字で読み換えることによって，理解可能となる場合がしばしばである点が理由となる[10]。また底本複数の仮説だが，第 134 項〈大斎第 5 土曜〉に〈異なった福音〉として 2 つのペリコペーを指定することが根拠となる[11]。2）につき，Z が他本に比してきわめて簡略であること。すなわち，Z 中は日付けと Am No を記すことが主で，Apostolus, Alleluia, 祝祭対象聖人名などの記載はない。（ただし第 3 につき 1 例あり。）[12] 又，Z に省略や軽い誤りなどがみられ，粗雑な感を与える例がみられる[13]。さらにペリコペーの配分に異なりが存在し[14]，時に錯綜あるいは錯誤を疑わしめる箇所があることである[15]。これは上記 1）の底本複数の仮説とも関連するであろう。

他に気付いた点を掲げると次のようである。

3）　VP には元来存在しなかった項がある。（第 120，122 項）。

4）　VP の Inc に特異な例が存在する。すなわち Inc Ⅳa（第 23 項）。

5）　Inc に関し，VP は I が主である（I′も含む）のに対し，Ostr は初めは I だが徐々に I a が主となってゆく。また VP に比して，Ostr は Inc のタイプが同一タイプ内で多様化している。（以上は上の 2）とも関係するであろう）。

6）　Inc とペリコペー間に，これらをつなぐテクストが挿入される場合がみられる[16]。

7）　Ostr にも数字表記に関し，グラゴル・キリル両文字の誤認・混同が存在する。おそらく底本に由来するものであろう。

5. まとめとして

前節で述べたとりわけ 1）2）については，ペリコペー中のテクストそのものを他本と比較検討することが，最終的には要求される。しかし今はしばらく猶予を乞いたい。また上掲対比表の備考につき，初め粗く，後半から煩

瑣となり，全体として統一性を欠いた点も寛如されたい。VP 側からの問題を明確化する故である。

前稿でも述べたが，VP が脱落を有する palimpsest であり，その翻刻本は上掲底本のみであること（写真掲載なし），等々文献学上の問題を大きく孕み，又小論執筆の際キリスト教用語の不統一な使用をせざるをえないなどの技術的問題を常に抱えたが，VP の synaxarion の構成につき，大略の理解が得られたと考える。

注

（1）　岩井憲幸〈『ヴァチカン・パリンプセスト・キリル・アプラコス』の menologion〉「明治大学教養論集」通巻 460 号，2011 年 1 月。

（2）　本稿はいわば VP の synaxarion の形式的，あるいは構成につき検討を加えることをもっぱらとする。大局的立場から synaxarion と menologion については次を参照せよ。服部文昭〈『オストロミール福音書』，『アルハンゲリスク福音書』，『ムスチスラフ福音書』── 古代ロシア文語萌芽期における位置づけ〉，岩井憲幸・服部文昭『古代ロシア文語萌芽期の最終期における言語特性について』（平成 18 年度～平成 21 年度科学研究費補助金（基礎研究（c））研究成果報告書，2010 年 3 月。

（3）　スラヴ語 aprakos において〈主日の早課の 11 の福音〉がどこに配置されているのか問題は，前注服部論文を見よ。

（4）　言うまでもなく，この葉番号が連続して付されているからといって，内容も順当に連続しているとは限らず，残存する葉を内容に沿って若い順に番号化したものであることに注意せよ。

（5）　型という以上，定式化され数量的にも裏づけをもつものと考えるのが至当であるが，本稿では特異例も下位区分を設けて，型を広く解釈しておく。以下に示す古代教会スラヴ語（OCS）のテクストの綴りは，標準化正書法に従うが，各写本からの引用は原本のままとする。

（6）〈葉〉の語を用いれば，recto か verso かが問題となるが，ここでは〈葉〉のどちらかが欠落している意とゆるく考えてほしい。

（7）　Востоков 刊本〈СЬIРО-〉とするが，ファクシミリ版によれば〈СЪIРО-〉である。

（8）〈アンティパスハ〉なる語については＊4 にも述べたが，スラヴでの用法については SJS を見よ。

（9）　たとえば，No 96（第 140 項）などにみられるグラゴル文字の残存は，その底本の痕跡の一部か。

（10）　さらに Ꙁ と S も関与する例は第 121 項。Menologion での S・Ꙁ・Ꙁ の問題は拙稿（2011 年），pp. 78–79 を見よ。

（11）　第 130，132 項もかかわる。

（12）　第 126 項。

（13）　例えば Z の省略は第 112 項，聖句番号のそれは第 128 項など。

（14）　第 92，136，138，144，157 項など。

（15）　第 92 項と第 94 項。

（16）　第 38 項など〈+α〉で表示した項がそれであるが，このいわば〈つなぎのテクスト〉は Inc の一部とみるか，ペリコペーの一部とみるかについては，再考の余地があるだろう。

（補注）　参考文献 A 5 に示した諸版のうち，2007 年モスクワ版リプリントは，巻末に新たな正誤表も付されていて，その後の研究の発展を反映するもののようにみえるが，本文および正誤表中，注意を要する点が散見する。

参考文献

A. テクスト

1)　Mar: Quattuor evangeliorum versionis palaeoslovenicae codex Marianus [...] edidit V. Jagić, Berolini-SPb, 1883. (Rep: Graz, 1960)

2)　Zog: Quattuor evangeliorum codex Glagoliticus olim Zographensis nunc Petropolitanus [...] edidit V. Jagić, Berolini, 1879. (Rep: Graz, 1954)

3)　Ass: Evangeliarium Assemani, Tomus II. Edidit Jos. Kurz, Pragae, 1955.

4)　Sav: В. Щепкинъ, Саввина книга, СПб., 1903. (Rep: Graz, 1959); О. А. Князевская-Л. А. Коробенко- Е. П. Дограмаджиева, Саввина книга, ч. I. М., 1999.

5)　Ostr: А. Востоковъ, Остромирово евангеліе 1056–57 года, СПб., 1843. (Rep: Wiesbaden, 1964; М., 2007); Остромирово евангелие 1056–1057, Факсимильное воспроизведение, Л.-М., 1988.

6)　VP: Т. Кръстанов и др., Ватиканско евангелие, [...] София, 1996.

7)　Vrac: Б. Цоневъ, Врачанско евангеле, София, 1914.

8)　C. Tischendorf, Novum Testamentum Graece, Editio octava maior, vol.1, Lipsiae, 1869. (Rep: Graz, 1965)

9)　Библия, Издание Московской Патриархии, М., 1983.

10)　А. А. Алексеев и др., Евангелие от Иоанна в славянской традиции, СПб., 1998; Евангелие от Матфея в славянской традиции, СПб., 2005.

B. 辞典・事典類

1）SJS: Slovník jazyka staroslověnského, Ⅰ－Ⅳ, Praha, 1966–1997.（Rep: Словарь старославянского языка, I–IV, СПб., 2006）

2）E. A. Sophocles, Greek Lexicon of the Roman and Byzantine Periods, Cambridge, U. S. A.–Leipzig, 1914.（Rep: Georg Olms Verlag, Hildesheim-Zürich-N.Y., 1983）

3）上智大学，カトリック大辞典，Ⅰ－Ⅴ，冨山房，昭和 15–35。

4）上智学院，新カトリック辞典，Ⅰ－Ⅳ，研究社，1996–2009。

5）小林珍雄，キリスト教用語辞典，東京堂出版，昭 47（第 9 版）。

C. 文法書その他

1）木村彰一，古代教会スラブ語入門，白水社，1985。

2）M. Garzaniti, Die altslavische Version der Evangelien, Köln-Weimar-Wien, 2001.

3）A. Vaillant, Grammaire comparée des langues slaves, t. Ⅱ, 2me partie, Lyon-Paris, 1958.

4）千野栄一，〈ヴァチカン・パリンプセスト・キリール・アプラコス〉，「窓」106，ナウカ，1998 年 8 月。

5）K.-H. ビーリッツ著，松山興志雄訳，教会暦，教文館，2003。

【本稿は平成 22 年度～平成 25 年度文部科学省・日本学術振興会の科学研究費補助金（基盤研究（c），課題番号 22520332）による研究成果の一部である】

（いわい・のりゆき　文学部教授）